

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100628		
法人名	有限会社 ひばり		
事業所名	グループホーム ひばり		
所在地	熊本市南区南高江1-3-46		
自己評価作成日	令和4年3月15日	評価結果市町村受理日	令和4年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和4年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中、温かく安全に生活ができる環境作りにも努力している。ご利用者の今という時間を大切に、有する能力を活かし、自立した生活を営めるよう支援している。職員間でも、報・連・相を徹底し、定期的なミーティングの実施により、ケアの統一に努めている。人と人との和を大切に、事業所内だけに限らず、地域住民との日頃の触れ合い、関係作りも今後継続して行い、ホームの活性化を図りたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1ユニットで開設したホームだが、増床により2ユニット18名の賑やかな運営を展開している。幹線道路から一步入った道路沿いに昔ながらの地域性や、人々との関わりが残っており、回覧板のやり取りや菜園づくりの手ほどきを受けながら生活している。地元医療機関との連携、地域業者による食材の納入や訪問内容など地域資源を入居者支援に反映させている。入居者の有する能力を活かし、できる力をホーム生活に発揮してもらうことで自信や喜びにつなげている。居室からリビングに出て皆の中での日常に入居者の笑顔が見られるようになるなど、普段の関わりを大切にしている。全家族がホームで最期を希望しており、医療機関への移行や看取り支援など入居者との別れを余儀なくされた年ではあったが、小規模施設ならではの入居者と職員の距離がアットホームな日常を作っており、変わらぬ支援が継続されることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングや事務所に理念を掲げ、何時でも誰でも見ることができるようにしている。新入職員に対しても姿勢や理念を説明し、ケアに直結できるよう、職員間で共有している。	入退居が続いた1年ではあったが、職員は理念である“家庭的なふれ愛や今という時間を大切にすること、その方の有する能力を活かすこと”を入居者支援の柱としてケアに向き合うようにしている。不安を抱えて入居する方に寄り添い、これまで培ってきた特技や残存機能を引き出し、個々の力が発揮できる環境を整えるように努めている。年度末には理念について振り返りの機会を持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、活動を自粛中であるが、ご近所の方々とは日常的に交流はできている。	ホームは自治会に加入しており、回覧板のやり取りや会費の納入を通じて地域の一員として活動している。食材は地元業者に依頼し、菜園の野菜も活用しているが、さつま芋の苗を植え付けた際は近隣の方に手ほどきを受ける等協力が得られている。コロナ禍以前には、地域の保育園児や小学生との交流が行われていたが、現在は中止されている。	コロナ終息後の交流再開に向け、保育園や小学校とコンタクトをとることも検討願いたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣には数カ所看板を設置し、ホームを地域へ周知。ご近所の方が来所され、「入居したい。ひとりしや不安。」と相談に来られたこともある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、活動を自粛中である。電話により、状況を見ながら活動の再開、検討を行っている。また、自治会長様による定期的な訪問時に報告している。	コロナ禍により運営推進会議の直接開催は難しいと思われるが、資料送付による書面審議として開催することが必要と思われる。	まずは行政の指示を仰ぎながら、感染症終息後の直接開催に向け情報発信の機会をもたれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市から問い合わせ、課題があった場合は早急に行っている。又、成年後見制度の活用により社会福祉協議会と毎月必要時連絡を行っている。	行政からの感染症の情報やアンケート調査に応じ、認定調査時には居室にて職員が立ち会い、入居者の現状を伝えている。本年度は行政に報告が必要とされる大きな事故もなく、何かあれば連絡を取るようになっている。成年後見人制度を利用しており、社協との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指針を策定し身体拘束適正化委員会を立ち上げ、3ヶ月に1回開催中である。また、事例検討会を行い、必要時にはご家族同意のもとプランにセンサーの使用を組み込んでいる。	身体拘束の排除に向けたホームの指針をもとに適正化委員会を設置し、定期的勉強会で認識を深めている。転倒などの危険回避にセンサーマットを使用する場合は、家族に説明の後了承を得ている。言葉使いについて強い口調ではないが、同時対応が難しい場合などに「ちょっと待ってください」「座ってください」などの言葉が出てしまうとの事である。	言葉使いについては、威圧的になっていないか、声のトーンはどうかなど、機会あるごとに話し合いの場をもつ事が期待される。“指針”については、玄関など目に付く所に掲示して職員の意識付けとしたり、来訪者への啓発につながればと考える。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	拘束、虐待はしないという方針を掲げ、3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会を開催している。対応に苦慮しているケース等を報告、日々研鑽しケアの実践に繋げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は外部研修は行わず、施設内の職員研修を実施。学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書・重要事項説明書を読み交わし、利用者・家族が納得、同意に至るまで質問を受け付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な家族と連絡を取り、近況報告、相談、要望等をお伺いしている。また玄関入り口には、意見箱を設置している。	意見箱は各ユニットに設置し、家族からの意見や要望を収集するようにしているが、来所時や電話で直接話されるようである。年4回発行する“ひばりだより”で入居者の日常を伝え、面会が制限される中で安心してもらうようにしている。入居者の要望は日々の関わりから聞き取り、「買い物に行きたい」等の要望が出されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング、必要に応じて代表による個人面談を実施、研修会において意見交換を行っている。代表と管理者共に常に耳を傾け改善方法等検討を行い、業務等に反映することが出来ている。	職員は月の会議でケア向上に向けた意見を出し合い、入居者支援に反映させている。管理者は職員面談の際に意見を聞き取りながら、同時にホームや個人の課題を投げかけ、共に対処していくこととしており、代表者との面談も行われている。有休取得や希望休への対応、資格取得のサポートなど法人の機能が活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員から上がった意見を基に、業務改善へ繋がるよう職場環境改善に努めている。業務実績に対しては労働条件等で対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染防止対策により、外部講師による研修等の機会はないが、月1回のミーティングの中に研修会を設け、職員2名体制による勉強会を実施し、職員のスキルアップへ繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染防止対策継続につき外部との交流会等への参加は自粛中である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントにより本人や家族との面談の中で悩みや困りごと、要望を十分に伺えるように、両棟の管理者、ケアマネージャー同行にて入居検討会を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の面談において、ご家族からの要望を聞き取り、家族間においてもキーパーソンを取り決めて頂き、意見の統一が図れるよう努めている。何時でも質問を受け付け、信頼関係の構築が入居前にできるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前の面談の課程で、どのような支援が必要であるのか、グループホーム内のサービスの仕組みについて話を十分に行い、必要時のサービス紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分の家にいるような生活環境作り、好きな物を持参して頂き、珈琲を入れたり、職員も一緒にお茶の時間を設ける等、くつろぎの時間を共に過ごすようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染防止対策の為、面会制限を行っており、面会の機会が減っているが、電話等の対応も全職員が可能で、家族との繋がりも出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限がある為、面会はできないが、ハガキや手紙でのやり取りをされ、職員は相手方の住所を調べたり、電話の希望があれば、相手方への配慮をしながらサポートしている。	入居者の中には自ら文章を書いて家族あての便りを出される方もおられ、職員がサポートをしている。この1年は医療機関への移行などにより入居者の入れ替わりがあっているが、入居当初の不安や戸惑いに寄り添い、他者との関係性を促すことで、現在では自然と皆の中に入ってこられるなど、馴染みの関係性ができつつある。自室で新聞を読まれていた方がリビングにて切り抜きをされるなどホームでの馴染み関わりが出来ている。	個々のできる事や出番を用意しており、巻き寿司作りや菜園で収穫した芋をてんぷらにするなど、馴染みの食べ物に腕を振るわれている。継続した取組が期待される。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士のコミュニケーションの橋渡しが出来よう、職員は間に入りフォローしている。また、2ユニットになりご利用者同士の関わりも増え、気分転換にも繋がっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退居や長期入院による退居後もご家族よりお礼状や電話を頂くなど、良好な関係が築けており、転院先や転設先、現状などをお尋ねし必要に応じてサポートを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人、家族より生活歴や意向の聞き取りを行い、出来るだけ添えるように努めている。又、入居後の申し出には家族へ代弁する取り組み、協力を仰ぎ本人主体のサービスが提供できるよう検討を行っている。	職員は普段の生活の中から入居者の思いを引き出し、支援に反映させている。発語困難な方であっても挨拶が出来られることから、顔の表情や声のトーンなどからその時の気分や体調を推察しながらケアにあたっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談等において、本人の生活スタイルの把握に努め、馴染みのある物品等を居室に自由に置くことができる。できるだけ本人様の自由に添えるようケア、サポートを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態に応じて日々検討を行い対応をしている。日中は皆様とリビングでの生活を主としている。出来る所は行って頂き、できない所はサポートに入っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントにより情報収集を行ったうえで、より本人の思いを中心にしたプランとなるよう作成している。心身の状況により、期間設定目標を随時検討を行い、ベストなケアができるよう心掛けている。	計画作成担当者は入居者・家族の意向を優先し、プランを立案している。管理者は普段からユニットに関係なく全入居者と関わることで現状を理解し、気づきを提案できるようなケアを職員と目指したいとしている。全家族がホームでの最期を望まれており、ここでの長い生活が予想されることから、できる事で自身の力を発揮してもらいながら、状態変化を見逃さず、医療機関や家族と連携し、安定した生活が送れるような内容を掲げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録はできている。気づきがあればすぐに職員同士で話し合いの場を設け情報共有し、リーダーへより取りまとめ他職種へ報告、質の向上へつなげるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他職種の方々とも意見交換を常に行い、多機能な支援方法の検討を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のご近所の方より、お花を頂いたり、畑でできた野菜を頂いたりと交流の機会が増えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時、本人・家族へは協力医による訪問診療を行っていることを説明。かかりつけ医の継続を希望される場合も可能としている。毎日、定時に協力医へ状態報告を行っている。ご家族が遠方である場合は、ホームで柔軟に対応している。	現在、本人・家族の同意のもと協力医療機関による月2回の訪問診療や状況に応じて職員(管理者又はケアマネ)が同行し受診に向いている。専門医については家族が対応している。歯科は協力医や希望する歯科医による治療や口腔ケアが行われている。ホームは入居時に健康管理及び医療に関して説明し、病院受診や急変時・救急時の対応について書面で同意を受けている。また、主治医や訪問看護と連携を図りながら入居者の健康を支え、家族からの相談にも随時応じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化時はいつでも主治医、訪問看護と連絡が取れる。指示を仰ぎ、適切な指示を受けることができ、連携を密に取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報シートを活用し病院との情報・共有・交換がスムーズに行えるようにしている。入院中も状態確認等、病院関係者との連携を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に方針の説明と現時点で家族の意向を確認し、いつでも相談と変更は可能である旨を伝えている。入居後にそのような状態になった場合には再度方向性について家族へ確認し、主治医と関係者とチームを組み、本人・家族を支えていくようにしている。	ホームは重度化した場合の対応や看取りに係る指針の中で家族の意向や終末期医療に関する確認書、看取りの同意書を作成している。これらは入居時や必要時に説明と同意を書面で得ている。この1年間で一人の看取りを支援した際は、リビングで安らかに過ごされ、きざみ食が最後の食事となられたようである。月の会議の中で本人を偲びながら振り返りをが行われ、エンゼルケアなど勉強不足であったことなどが反省としてあがっている。	支援後の振り返りの中で出された反省点などが今後活かされ、ホームでの最終を望まれる本人・家族の思いに応えていかれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時(夜間)対応フローチャートを作成し、朝の申し送り時やミーティングの際に説明、確認を行っている。また、年に2回消防訓練、年1回心肺蘇生法を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施し、可能な限り入居者も参加。災害備蓄に関してはリストを作成し早急に備えを行っている。	今年度は6月に昼想定で避難・誘導訓練、3月に夜間想定で避難・通報・誘導・消火器(水)訓練を実施している。ホーム周辺やコンセントの埃などは日常的に確認しており、災害備蓄も定期的にチェックし有事に備えている。	今後は自然災害や防犯などについても、訓練の機会を持たれることを期待したい。また、運営推進会議の中で議題にあげ、参加者から意見や提案を受けることも良いと思われる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報、守秘義務については周知徹底を日頃より図っている。声掛け、言葉かけも周囲に配慮しながら行っている。	言葉使いを含め入居者の尊厳やプライバシーに配慮した支援、守秘義務の徹底などについてミーティングの中で周知を図っている。呼称は苗字や反応などから下の名前でも対応し、トイレへの誘いはできるだけ小声で行うように努めている。入居者の中には好みの衣類の選択やお化粧を楽しむ方もおられ、職員と一緒に選んだり、必要なアドバイスをしている。化粧品が不足した際は、早めに家族へ購入を依頼している。整髪は訪問カットにより支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い訴えがいつでもできる環境や接し方を心掛けて日々ケアを行っている。職員はできるだけ本人の希望に寄り添うよう声掛け、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の生活のペースや体調を把握しながら、どのように過ごしたいか、その方のペースや希望に沿って支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お気に入りの洋服、化粧などご本人と職員とで自己選択をさせている。定期的に訪問美容も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や季節感のあるメニュー作りに努めている。管理栄養士による献立メニューを提供。食事の準備や片付けもできる範囲のお手伝いを行っている。食事中には懐メロやラジオを流しながらも、他者との会話も聞かれている。	管理栄養士が作成した献立にそって、職員がホーム内で調理を行っている。食材は精肉をはじめ専門店も活用している。日常は家庭的な料理をメインとし、お節やひな祭りなど行事食も工夫を凝らし手作りで提供している。食形態は嚥下力に応じてひと口大やミキサー食を準備している。食事中はラジオなど音楽を流し、ゆっくり楽しめる雰囲気を作っている。入居者はテーブル拭きやエプロン配りなどできることに取り組まれている。	職員は持参した弁当などを摂っているが、比較的調理しやすいカレーなどが、同じものを食べる日を設けることも良いと思われる。また、かき氷大会は盛り上がったようであり、ひと夏に数回実施することで暑い夏の楽しみが増えると思われる。検討いただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や食事形態はその人その人に合った形で、一口大やミキサー食等にて提供している。水分摂取についても、お茶のみに限らず本人の好きな物を提供したりと、ご利用者も楽しみにされている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。ご自身でできる方は声掛けにて誘導し行っている。一人一人に応じた対応で、スポンジブラシ、義歯洗浄等、職員がサポートに入っている。また、週1回訪問歯科による定期の診療を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個人記録シート表を活用。定時の誘導とパット交換を実施。その日の体調に応じてオムツ対応の方を日中リハビリパンツにてトイレへ誘導。排泄能力をなくすことのないよう支援を行っている。	個人記録ノートを活用し、定時誘導や見守り、パット交換、排泄用品の使い分けなど個々応じて取り組んでいる。日中はリハビリパンツの方が主であるが、布パンツ(パット併用もあり)で過ごされる方もおられる。一日を通しオムツを使う方や、夜間のみオムツやポータブルトイレを使用される方もおられる。トイレはユニットに3か所設けられ、形や広さが異なっており、身体状況や居室の近くなど、個々が使いやすい場所を利用されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活リハビリを主に、適度に軽度な運動を取り入れ、食事や水分等を工夫し配慮している。また、主治医と連携し内服の調整等も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2回の入浴を行っているが、必要に応じて3回、又希望があればその都度対応している。ご利用者のその日の体調により随時入浴ができるよう個々にあった支援を行っている	基本的に週2回、午前中を中心に入浴支援を行っている。東ユニットにはリフト浴が備わっており、西ユニットで重度化された方なども利用している。同性介助については、現在希望される方はおられない。菖蒲や柚子湯は季節を楽しめるよう継続しており、全員が入れる日数準備している。また、入浴剤も色や香りを楽しまれており、紫やピンク色を好まれるようである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人その人の生活リズムを尊重し、安心して過ごして頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師によるアドバイスを受けながら、一人一人の内服薬について処方箋を確認。又、服薬確認表を作成し、ダブルチェックにて後薬、飲み忘れがないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、掃除のお手伝い、台拭き、食器洗い、洗濯物たたみ、調理の準備や配膳等、日々の生活の中で一人一人の得意分野で持っている力を発揮してもらえるよう感謝のお言葉を伝えている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、外出は自粛していた。園外の散歩は気候通い日に行い、花壇を触ったり眺めたりと気分転換を図っている。	この1年も外出を控えた年であったが、庭先に出るなど外気に触れる機会を確保している。感染症が少し落ち着いた正月には一時帰宅をされた方もおられる。「買い物に行きたい！」など、入居者からし好品の購入を希望されることもあり、感染症の状況を見ながら検討したとしている。また、家族からも外食や「祝い事での帰省をしたい」などの要望が出されており、感染症の終息が待たれる。	玄関先は車両の通行も殆どない事から日光浴や時にはお茶の時間を楽しむなど継続した取組が期待される。また、DVDやYouTubeなどを活用して、入居者の希望する旅行先や花の開花などを見ることも楽しいものと思われる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設側でお金を預からない為、個別で何か欲しい物、必要な物があればご家族へ代弁し、購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者より訴え、希望があった時はその都度いつでも対応できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、各居室には空調設備も整っており、温度湿度管理には気をつけている。また、リビングには、ご利用者と一緒に作成した、季節に応じた貼り絵、折り紙、塗り絵等を貼り、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	感染症への対応から日々の掃除や消毒の徹底と、大型の空気清浄機が各ユニットに2台配置されている。リビング食堂には季節の製作品や入居者の作品などを掲示しており、訪問当時は桜の壁面が飾られており、花びらには入居者の思いが書かれていた。ユニット間は事務所を挟んで距離もあることから、互いをお隣さんとして行き来し、歩行訓練にもなっている。ユニットの開設年度の違いからホーム内の雰囲気も異なるが、それぞれの職員が過ごしやすい雰囲気を心がけており、新しく入居される方も、新ユニットの希望、落ち着きのある旧ユニットの希望など好まれるのも様々である。	外出も制限されている状況であり、引き続き掲示物や、庭先に咲いた草花を飾るなど季節を感じる事が出来るような取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的に各自好きな場所へ座って頂いている。又、気の合う方同士で座られたりゆっくりとソファでくつろげるようにクッション、毛布等を置いており居場所作りの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物は持参して頂いている。居室内はご自身の好きなように、居心地がよいようにご家族とも相談しながら工夫している。毎日、各居室内の清掃も実施している。	コロナ禍にあるが対策を施し、居室内の様子を確認してもらっている。部屋のスペースは限られているが本人の部屋の雰囲気が出るよう、可能な限り持ち込みを依頼している。居室入り口には表札やわかりにくい方には目印になるものが付けられている。タンスや洗面台が備わった部屋もあり、家族は鏡台やテレビ、冷蔵庫など大型の物品や必要な小物などを持ち込まれている。冷蔵庫には飲み物や菓子類などを入れられ、テレビは居室ではあまり見られないようである。また、仏壇を持ち込まれ花を備えておられる部屋も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内全面バリアフリーで各トイレには、ご利用者目線の位置に貼紙をしている。ご利用者の機能を活かせるように、テーブル席の配置をかえたり工夫している。		